

決算説明会資料

株式会社ファインデックス

2020年12月期 通期決算 2021年 2月



2020年12月期 通期業績

大規模病院で高いシェア & 安定した売り上げと利益



企業概要

会社名	株式会社ファインデックス(英訳名 FINDEX Inc.)
代表者	代表取締役社長 相原 輝夫
本社	東京都千代田区大手町2丁目6-1 朝日生命大手町ビル1F
他支社·支店	四国支社 大阪支店 福岡支店 札幌支店 那覇支店 新潟支店 京都支店 (2021/4/1)
子会社	EMC Healthcare株式会社 FittingCloud株式会社
URL	https://findex.co.jp
資本金	2億 5,425万円
全従業員数	278名(連結:285名 2020年12月現在) ※パートタイマー等9名(連結9名)含む

2020年通期 業績・前年比(連結)

- 2020年は2つの要素で危惧した通り、前年比減収減益の厳しい期初予測だったが、効率的な経営で各利益は予算を大きく上回った
 - ・コロナ禍でのクリニックのIT投資減少と医療機器生産の遅れ
 - ・2020年は大規模医療機関のシステム更新サイクルの谷間

(単位:百万円)

	2019年 実績(連結)	2020年 実績(連結)	前年同期比	対予算比
売上高	4,281	4,004	93.5 %	△4.9%
営業利益	743	636	85.6 %	9.7%
経常利益	746	643	86.2 %	10.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	499	430	86.2 %	13.9%
1株当たり 当期純利益金額(円)	19.50	16.81	_	_

セグメント別の業績(連結)

(単位:百万円)

	報告セグメント			
	システム 開発事業	ヘルステック 事業	調整額 (注1)	計(連結実績) (注2)
外部顧客への売上高	3,983	21	I	4,004
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2	_	△2	_
売上合計	3,986	21	△2	4,004
セグメント利益又は損失(△) (営業利益)	843	△206	_	636

- ※1. 調整額はセグメント間取引消去によるものであります。
 - 2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2020年通期 概況

- コロナ禍にある中で、大規模医療機関はズレなくしっかり。
 システムの新規導入や更新は、コロナ以前に決定されているため
 2020年の売上に極めて大きな影響は無かった。
- ■病院・自治体共に営業活動が積極的に行える状況ではなかったが、withコロナの働き方で病院システムのニーズは衰えず、自治体システムは在宅ワークと印鑑レスペーパーレス等の流れで引き合いは増大した。
- ■医療機器は中国のパーツ入荷の遅れが大きく、市場投入が一年余り のズレとなったが、発売後に予定していたAI部分の追加研究も前 倒しができた為、じっくりと準備ができた。

2021年度

医療システム開発の安定した伸びを背景に 新セグメントの成長

「HealthTech事業」で着実な利益を創出 医療システムのクラウド化

医療システム事業

- ・2020年度の診療報酬(医科)はプラス改定

 ⇒コロナ感染拡大を受け、システムの在り方も今後変化
- ・全製品のクラウド化・月額利用モデルの本格的な販売

HealthTech 事業

- ・GAPの3月販売開始、視野検査事業の本格始動
- ・医療データの分析とAI診断支援に向けた取り組みを強化 ⇒Fitting Cloudと連携し、健康データ活用新ビジネスを展開

オフィスシステム 事業

- ・限られたリソースを最大限に活用する為に「選択と集中」
- ・販売店と既存医療機関ユーザーを活かして効率的に販売展開 ⇒病院のバックオフィス・中小の自治体などで引合多数

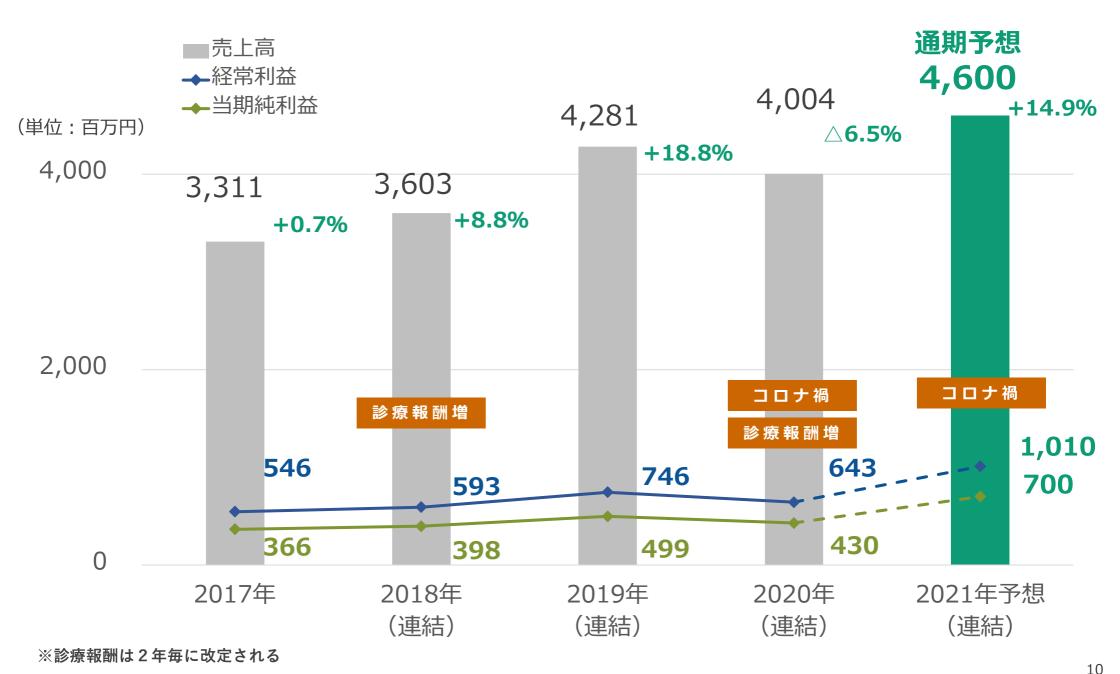
2021年業績予測(連結)

- ・2021年2022年は大型顧客のシステム更新が集中
- ・GAPの3月本格的販売開始で200Mの売り上げを予定
- ・2拠点新設で来年以降のビジネス拡大に準備

(単位:百万円)

	2020年 実績(連結)	2021年 業績	漬予想(連結)
	金額	金額	前年同期比
売上高	4,004	4,600	+14.9 %
営業利益	636	1,010	+58.7 %
経常利益	643	1,010	+57.0 %
親会社株主に帰属する当期純利益	430	700	+62.6 %
1株当たり純利益金額(円)	16.81	27.34	_
1株当たり配当金額(予定)			
中間配当(円)	2.50	2.50	_
期末配当(円)	5.50	5.50	_
年間配当金合計額(円)	8.00	8.00	_

売上高、経常利益及び当期純利益の推移



大学病院の導入率がファインデックスのベンチマーク

大学病院

導入済大学病院数/

国公立大学病院・私立大学病院数

116施設/149施設

(分院含む)

中規模病院

大規模病院

小規模病院・診療所

全ユーザー数 2,124先

※個別導入実績については、当社HPをご参照ください

大規模病院(500床以上)

256施設/ 401施設

中規模病院(100~499床)

570施設/4,954施設

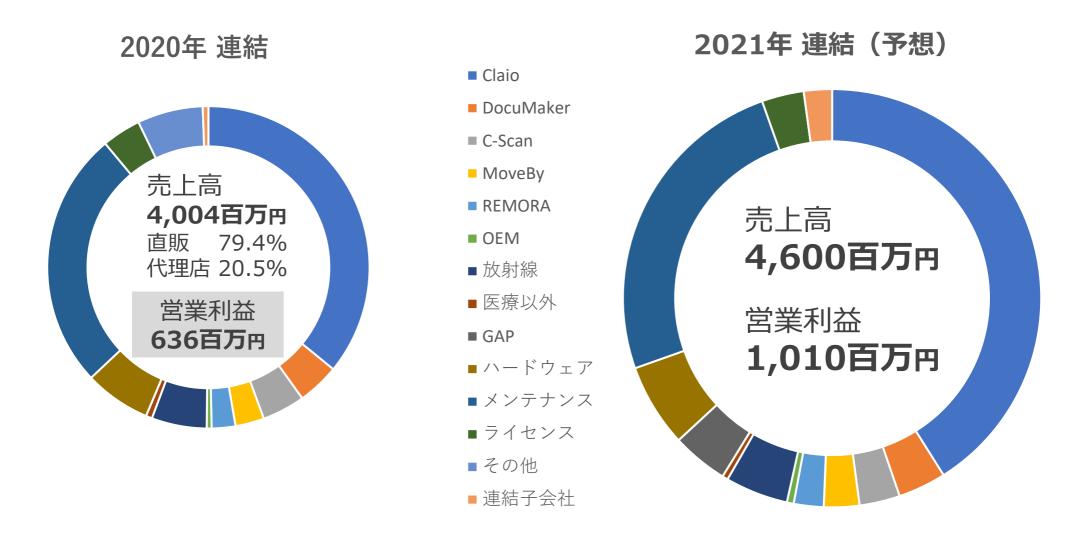
小規模病院(20~99床)

132 施設/ 2,945施設

一般診療所

1,166 施設/102,616施設

製品別 売上高



withコロナを意識した新サービスを開始

オンライン診療など患者が病院へ行かないケースを想定し、 Webを活用したサービスの提供を開始

患者と病院のWebコミュニケーションツール

- 患者はインターネットを利用して自身で処理や確認を行うことが可能
- 病院からは自動的に次回診療の案内や注意事項を送信
- 大規模病院と患者の双方向コミュニケーションを支援し患者サービスの質向上に寄与

FAX送受信管理サービス

- 地域連携における患者紹介、オンライン診療における処方箋送信などにFAXを多用
- FAXを紙に出力することなくデータとして管理、患者IDと紐づけ
- FAX送受信業務の効率化を支援、医療スタッフの負担軽減と施設間の連携強化に貢献

DocuMaker コンテンツオンライン公開サービス

- 文書作成システムDocuMakerで作成する診断書や公的文書の最新様式をオンラインで 公開しスピーディーに提供
- 医療機関における書類作成業務の負担軽減、ひいては医療機関の働き方改革に貢献

新セグメント ヘルステック&オフィスシステム



視野検査

新しい視野検査手法を確立し、 視野異常の早期発見を目指すと共に ビッグデータを活用したビジネスを展開していきます。

2つの側面からビジネスを展開

視野検査装置の開発

- 世界初の視野検査システムを開発
- 医療機関だけでなく、 健診施設においても検査を可能に (検査は視能訓練士が実施)

視野疾患データの収集・分析

- 無料アプリとして配布
- 世界規模の視野疾患に関するデータを収集
- 病気予防や創薬、健康管理に活用

新たな検査手法を用いた視野検査システム GAP



1. 視野検査装置のマーケット

機器の国内のマーケット規模

健診施設・人間ドック 約1,200施設 初期費用無し/検査毎課金販売を予定(検診版)

眼科病院・クリニック 約6,000施設 @300万円=約 **180億円**(医療版)

5年の国内売り上げターゲット

健診施設・人間ドック 6 億円

眼科病院・クリニック **36 億円**

海外のマーケット規模は医療機関だけで約900億円 2021年度中にヨーロッパから海外販売開始予定

2. 視野疾患データの収集・分析・その他マーケット

アプリ版を使って眼の健康データを収集

GAPの基本原理で眼の健康状態をチェックするアプリを開発済み iOS/android 法準拠かつ高いセキュリティで実現

2023年までに国内・海外でクラウドサービス展開を予定

脳疾患・精神疾患・認知症・運転適性検査などに拡大

GAPのヘッドマウントディスプレイ検査装置の可能性

- ・内蔵された小型ハイスピードカメラによる高度な視線解析
- ・9,000眼を超える検査データをベースにAI診断実装

視野検査装置以外の検査機器としてマーケットを拡大 数年内に医療機器承認を目標

DocuMaker Officeの強みが活かせる 「自治体」と「医療機関」をメインターゲットに

自治体

共済組合・公益法人等含む

- 電子決裁 (起案・収受登録など)
- 簿冊管理 など

国が電子決裁への移行を推奨 システムを導入する自治体が増加

医療でのノウハウを活かし ユーザー目線に立った使いやすい システムで他社と差別化

医療機関

診療以外の事務部門全般

- ワークフロー
- 病院機能評価対応
- 契約書管理 など

病院機能評価の要件の変更を受け
文書管理に着手する病院が増加

多くの実績を持つ診療部門での 文書管理を事務部門にも展開し 院内全体の文書管理を支援

DocuMaker Office 自治体・公的企業への展開

市場

- ・国のDX推進やテレワークの推進が全国の自治体にも波及
 - ⇒自治体、公的企業において、電子決裁のニーズが急激に高まっている

当社の優位性

- ・製品力:医療で培ったノウハウを活かした"分かりやすく使いやすいシステム" 電子決裁以外の用途にも対応できる汎用性が高評価
- ・販売力:全国に販売網を持つ代理店とタッグを組んで展開中 既に自治体との関係性もできている為、効率的に営業活動が可能
 - ⇒販売:代理店、製品:FINDEXで、少数精鋭で効率的にビジネスを展開

今後の見通し

- ・自治体)2022年4月までの商談は多数、以降の商談も強化
 - ⇒新たな代理店獲得による販売力強化、代理店導入の実現により件数増加を図る
- ・公的企業) 既に2021年案件の導入が複数進行中
 - ⇒事例の横展開とクラウドを活用した短期間での効率的な導入で、実績を積み重ねる

DocuMaker Office 医療機関への展開

市場

- ・業務効率化に加え、コロナによる接触機会の削減やテレワークの推進が加速
 - ⇒電子決裁や文書管理のニーズが高まっている

当社の優位性

- ・信頼性:医療システムで培ってきたノウハウと確かな実績
- ・機能性:一般的な文書作成や申請だけでなく、公文書管理にも対応可能
 - *病院には公文書管理が義務(努力義務)が課されている
 - ⇒公文書管理まで含めた医療機関向け文書管理システムはDocuMaker Officeだけ

今後の見通し

- ・2021年1月稼働の大規模案件も安定稼働中
- ・多くの医療機関から引き合い有
 - ⇒診療系システムと合わせて、積極的に販売展開

ニュースリリース



京都大学の事業子会社である京大オリジナル株式会社と 新規合弁会社を設立



Fitting Cloud

フィッティングクラウド株式会社



病院間での情報連携 診療データの管理分析 患者と病院の新しいコミュニケーション





医学・医療・IT・医療情報に関する法令や法規に関する知見 京都大学 ITサービスの設計・開発・運用・マネージメントの知見 **Findex**

> クラウド上に新しいサービスを展開! 医療機関、医学研究機関、大学等の研究機関に販売



New 新規合併会社について (詳細)



名称	フィッティングクラウド株式会社
本社所在地	京都市中京区三条通 烏丸西入御倉町85-1
代表者	代表取締役 相原輝夫(ファインデックス代表取締役と兼務)
出資比率	ファインデックス:70% 京大オリジナル:30%
払込日	2021年3月15日(予定)
設立年月日	2021年4月1日 (予定)
決算期	3月31日
事業開始日	2021年4月1日(予定)

フィッティングクラウドは その技術力と先進性、様々な研究開発機関とのアライアンスをもって 医療機関・ヘルステック領域を超え、 様々な研究開発に資するプラットフォーム企業を目指します





CROSS SYNC

2019年創業、横浜市立大学発のベンチャー企業で、大 学及び大学附属病院との強固な関係性を持つ。数多くの 医師や医療者、国内屈指のAIエンジニアが結集。ひつ迫 する集中治療室での重症化予測AI搭載の医療データ統合 分析システムiBSEN(イプセン)の開発・提供を行う。

FINDEXの医療情報システムやヘルスソリュー ションと、CROSS SYNCの診療データ分析の ノウハウを生かし、国内外の医療現場における 幅広いソリューションを提案





New Digital Entertainment Asset社への出資



Digital Entertainment Asset Pte. Ltd.



シンガポールを拠点とし、ワールドワイドにブロック チェーンエンターテイメント事業を展開する。 独自暗号資産(DEAPcoin)とエンターテイメントを 組み合わせた「PlayMining」を開発運営、既に100 以上の国で利用されている。



DEAのブロックチェーンエンターテイメントを支えて きた経験と知見、暗号化資産および情報を高度に管理 する高い技術力を、データ管理の安全性が最も重要と される医療データ・ヘルスケアデータの管理に活かし、 新たなシナジーを創出することで製品力を高める



新製品

AI映像解析:午睡モニタリングシステム「ベビモニ」

天井にカメラを設置し、AIで子供の姿勢を識別

- カメラ1台で複数の子供を同時にチェック
- 付け・外し、設置・片付けが不要
- 誤飲による事故リスクなし







BabyTech® Award Japan 2020 powered by DNP 大日本印刷安全対策と見守り部門の優秀賞を受賞

新型コロナウイルス対策向け健康管理サービ、ス「Wellness Passport」

非接触で健康チェックや本人確認

● 事前に各自が健康データを登録・管理

● イベント当日は、QRコードを読み取ることで本人確認と直近の健康データの確認、検温を非接触で実施

想定される利用シーン

- スポーツや各種イベント運営者
- 飲食·観光業関係者様
- 小売店関係者様
- 地方自治体様等 などWithコロナ・Afterコロナ期において、人の集まる場所での健康管理を支援

*2020年10月11日 九十九里トライアスロンで活用





Progressive Software Creators

Always have, Always will.

